

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 日本橋中学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	【4月】 2学年は「令和6年度学力サポートテスト」において、全ての領域で目標値を上回っているが、3学年は基礎問題が3.1ポイント、活用問題が1.4ポイントと若干目標値を上回る結果になった。 【10月】 2学年は、「令和7年度学習力サポートテスト」において、すべての領域で目標値を上回っているが、1、3学年は目標値をわずかに達成できなかった。
数学	【4月】 1学年は全ての領域において、目標値より10ポイント以上上回ることが出来た。一方で、内容別では百分率の項目が目標値よりも16.5ポイント下回った。2学年は関数の領域で1.7ポイント、データの活用の領域で6.2ポイント目標値を下回った。内容別では一次方程式の立式が目標値を22.5ポイント下回った。3学年は全ての項目において目標値を上回ることができた。一方で内容別では証明が目標値を15.7ポイント下回った。 【10月】 「令和7年度学習力サポートテスト」において、1年生は全体として目標値を上回ったが、「活用」と「知識・技能」については目標値との差が小さく応用力の定着が必要である。2学年は全領域で目標値を超えているが「活用」と「思考・判断・表現」は得点率が低く、筋道を立てた説明力に課題がある。3学年は全領域で目標値に届かず、基礎の定着と表現力の向上が課題である。
社会	【4月】 「令和6年度学習力サポートテスト」において、1学年の正答率は目標値を8.5ポイント上回り、3学年は2.2ポイント上回ったが、2学年は5.7ポイント目標値を下回っている。観点別正答率の知識・技能の正答率も全体の正答率と同程度のポイントで目標値から離れている。また2学年は昨年度の1学期に学習した単元の正答率が低い。 【10月】 「令和7年度学習力サポートテスト」において、2学年の正答率は目標値を0.3ポイント上回っているが、3学年は6.9ポイント目標値を下回っている。観点別正答率をみると2学年は知識技能が目標値より1.3ポイント低く、3学年は活用において目標値より9.3ポイント正答率が低い。
理科	【4月】 「令和6年度学習力サポートテスト」において、1学年の正答率は目標値を8.1ポイント上回ったが、2学年は11.9ポイント目標値を下回り、3学年は2.6ポイント目標値を下回っている。観点別正答率では、知識・技能の正答率が目標値から大きく離れている。また2学年は昨年度の1学期に学習した単元などの正答率が低い。 【10月】 「令和7年度学習力サポートテスト」において、2学年の正答率は目標値を6.1ポイント上回っているが、3学年は3.4ポイント目標値を下回っている。問題別でみると2学年は「力の性質」が2.1ポイント、「地層」が11.1ポイント低く、3学年は基礎において目標値より4.9ポイント正答率が低い。
英語	【4月】 2学年は「令和6年度学力サポートテスト」において、全ての領域で目標値を上回っている。3学年は基礎問題が目標値より6.2ポイント低く、基礎学力の定着に課題がある。 【10月】 1、2学年は「令和7年度学力サポートテスト」において、すべての領域で目標値を上回っている。

体力向上	【４月】 学校平均が全国平均を下回った種目が、握力、長座体前屈、シャトルラン、50m走である。 【１０月】 学校平均が全国平均を下回った種目が、握力とシャトルランであった。
------	--

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

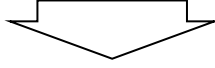
	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】 2学年は活用問題で目標値を大きく上回ることを目指す。3学年は聞き取る力と文法・語句の領域において、目標値を上回れるようにする。 【１０月】 1学年は基本的な知識事項を定着させ、3学年は活用問題や思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	・2学年は現在の取り組みを継続する。3学年は、話し合い活動を多くの単元で導入し、聞き取る力を育成する。また文法問題の演習や、語句調べなどを継続的に行う。 ・3学年は、話し合い活動を多く取り入れ、聞き取る力を育成する。また文法問題の演習や、語句調べなどを継続的に行う。
算数・数学	【４月】 「令和7年度学習力サポートテスト」において全学年・全目標において、目標値を達成できるようにする。 【１０月】 1、2学年は「活用」「思考・判断・表現」の力を意識した授業を通して、根拠をもって説明する活動を重視する。3学年は「基礎」や「知識・技能」の定着を図り、計算を正確に行うことや用語を誤りなく理解、使用できることを目指す。	・全ての単元について、基礎基本の定着を図るために、演習の時間を確保し、復習に取り組む。 ・基礎・基本が定着している生徒に対しては、活用問題を積極的に提示し、数学の学習への主体性を高めることで、活用力の向上に努める。
社 会	【４月】 「令和7年度学習力サポートテスト」において観点別正答率の知識・技能の正答率が3学年とも目標値を上回れるようにする。 【１０月】 単元末の授業の際に行う単元テストの前に、単元において出てきた資料を活用してまとめを書くことを実施するようにする。また、基本的な語句を確認できるチェックテストについても継続して行うようにし、単元別正答率の知識・技能、活用を3学年とも目標値を上回るようにする。	・単元末の授業の際に行う単元テストの前に、単元の基本的な語句を確認する単語チェックテストをタブレットで実施する。
理 科	【４月】 「令和7年度学習力サポートテスト」において観点別正答率の知識・技能の正答率が3学年とも目標値を上回れるようにする。 【１０月】 基本的な語句を確認できるチェックテストを継続して行うようにし、単元別正答率の知識・技能を3学年で目標値を上回るようにする。2学年においては、定着していない内容についての基本的な知識・技能の確認をしていく。	・定期的に授業の初めや終わりに、知識・技能の内容を確認する時間を設ける。 ・2、3学年ともに知識・技能を定着させるために、ドリルパークや定期的に既習事項の確認テストを行う。
英 語	【４月】 2学年は主体的に取り組む態度と活用力を伸ばし、バランス良い英語力の育成を図る。3学年は基礎学力の定着を徹底し、各領域のポイント为目标値に近付ける。 【１０月】 1学年は、英文の読み取り、英文の完成、英作文のポイントがやや低いため、バランス良く各領域のポイントを向上させていく	・2学年は、自分が伝えたいことを正しく書く取り組みと、英語でのやりとりの機会を増やし、4技能のバランスの良い定着を図る。 ・3学年は、基礎力定着のため、4技能をバランス良く伸ばすことができるよう授業

	い。2 学年は、語法の問題、さまざまな英文の読み取り、英作文の正答率の数値がやや低い。授業内のまとめの時間を使い、問題に取り組む機会を設け、正答率の向上につなげていく。	を組み立てる。特に「書くこと」の時間を充実させる。
体力向上	【4 月】 令和 7 年度の東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査において、生徒の 8 割が C 以上になるようにする。また全国の平均値を下回っている課題となっている項目については生徒の 7 割が都の平均値を超える。 【10 月】 東京都児童・生徒体力・運動能力・生活・運動習慣等の調査において、全国平均値を下回った握力とシャトルランの記録向上を目指す。	- 各単元における事前事後アンケートを実施し、生徒の実態を把握した上で、バランスよく体力の向上を目指した年間指導計画を作成する。 - 授業の導入時におけるコーディネーショントレーニングの種目数を増やすとともに、トレーニングの原則や種目における目的を説明する。また体づくり運動の単元を通して、自らの運動計画を立案する。 - 運動、スポーツを“する”だけでなく、“見る、支える、知る”など、多様な関わり方を通して、運動やスポーツを身近なものにする。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	- 国語、数学、英語科で少人数、習熟度別の指導を行い、個別最適な学びができるようにする。 - 話し合い活動モデル、話し合い活動振り返りシートを全ての授業に取り入れて話し合い活動を充実させ、意図的・計画的に協働的な学びを授業展開に組み込む。

探究的な学びの充実	
取組	各教科の中で、既習事項を活用しながら、課題を探究したり、問題を解決するプロセスを取り入れていく。その中で、自身の課題を明確にし、ICT 機器を活用しながら、自己調整を行い、自身の課題を向上させることにおいて、探究的な学びを充実させていく。

読解力の育成	
取組	朝読書を中心にした読書活動を充実させ、授業では身に付かない先人の知識・知恵を補完させる。課題を確実に読み取る力が養われるよう、課題から要点を押さえる工夫を、各教科の中で働きかけていく。また、発表の機会を設け、自分の言葉で内容を整理したり、考察したりできる力を養う。



3 取組結果の検証

	令和 7 年度の取組の成果	令和 7 年度の取組の課題と解決策
国 語		
算数・数学		

社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	